

2/3,AB/1

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI

(c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

002054745

WPI Acc No: 1978-67806A/ 197838

Film-forming cosmetic - includes non-aqueous dispersion of (co)polymer of polystyrene, alpha-methyl-polystyrene, polyethylene, polypropylene or poly(meth)acrylic polyester

Patent Assignee: KOBAYASHI KOSE KK (KOBA-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 53094041	A	19780817				197838 B
JP 86012884	B	19860410				198619

Priority Applications (No Type Date): JP 777526 A 19770126

Abstract (Basic): JP 53094041 A

The cosmetic contains a non-aq. polymer polymer dispersion as film-forming ingredient. The dispersion is either obtd. from the (co)polymer of styrene, alpha-methylstyrene, ethylene, propylene or an ester prep'd. from (meth)acrylic acid and 4-18C alcohol as dispersing polymer and lower alcohol as dispersing medium, or by using the (co)polymer of fatty acid-vinyl cpd. or the ester prep'd. from (meth)acrylic acid and <4C alcohol as the dispersing polymer and aliphatic hydrocarbon and/or aromatic hydrocarbon as dispersing medium.

The dispersing polymer and dispersing medium forms films with superior oil resistance, water resistance and drying property. Ethanol can be used as the dispersing medium instead of toxic toluene, ethylacetate, etc. The cosmetic can be used as an eyeliner, mascara, eyebrow, manicure, etc.

?

⑩日本国特許庁

⑪特許出願公開

## 公開特許公報

昭53-94041

⑫Int. Cl.<sup>2</sup> 識別記号  
A 61 K 7/02  
A 61 K 7/043

⑬日本分類 庁内整理番号  
31 B 4 6865-46  
31 E 2 6770-46

⑭公開 昭和53年(1978)8月17日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑮メイキヤツブ化粧料

-306

⑯特 願 昭52-7526

⑰発明者 清水徹

⑯出 願 昭52(1977)1月26日

三郷市彦成3-11-2-802

⑰発明者 徳田純一

⑯出願人 株式会社小林コーネ

東京都世田谷区船橋6-26-1

東京都中央区日本橋3-6-2

⑰代理人 弁理士 有賀三幸 外1名

### 明細書

#### 1. 発明の名称

メイキヤツブ化粧料

#### 2. 特許請求の範囲

(1) 皮膜形成成分として非水系ポリマーディス

バージョンを含有することを特徴とするメイ  
キヤツブ化粧料。

(2) 非水ポリマーディスバージョンが、(a)分數

重合体がステレン； $\alpha$ -メチルステレン；エ  
チレン；プロピレン；またはアクリル酸もし

くはメタクリル酸と炭素数4～18個の高級  
アルコールとのエステルの重合体またはこれ

らの共重合体で、族体が低級アルコールであ  
るか、または(b)分數重合体が脂肪酸ビニル；

またはアクリル酸もしくはメタクリル酸と炭

素数を以下の低級アルコールとのエステルの  
重合体またはこれらの共重合体で、族体が脂  
肪族炭化水素、芳香族炭化水素またはこれら  
の混合物である特許請求の範囲第1項記載の  
メイキヤツブ化粧料。

#### 3. 発明の詳細を説明

本発明は皮膜形成成分として非水系ポリマ  
ーディスバージョンを使用したメイキヤツブ  
化粧料、特にアイライナー、マスカラ、アイ  
ブロウ、マニキュア等に関する。

従来、アイライナー、マスカラ、アイブロ  
ウ等のメイキヤツブ化粧料は、その組成的分  
類において、乳化タイプ、皮膜タイプ、油性  
タイプ、油性皮膜タイプ等が知られている。  
すなわち、乳化タイプは液体油、ワックス類

と水とを界面活性剤で乳化し、ワックスの皮膜を利用するものであり、皮膜タイプはアクリル系、酢酸ビニル系等の水性エマルジョンを主成分とし、その高分子化合物の皮膜を利用するものであり、油性タイプは揮発性鎖状炭化水素と液体油、ワックス類とを主成分とし、ワックスの皮膜を利用するものであり、また油性皮膜タイプは乳化タイプと皮膜タイプの組合せ、あるいは油性タイプと皮膜タイプの組合せで、各タイプの長所をわちワックスの皮膜のよさと高分子化合物の皮膜のよさを利用したものである。

しかし、これらのマイキヤップ化粧料は次の如き欠点を有し、化粧料として必ずしも満足し得るものではない。すなわち、例えば、

乳化タイプにおいては耐油性、耐水性が充分でなく、皮膜タイプでは耐水性、乾燥性はある程度良好であるが、多量の汗、水等に対しても化粧効果の保持が不充分であり、油性タイプにおいては耐油性が全く不充分であると共に乾燥性も満足できるものでなく、油性皮膜タイプにおいては皮膜形成主成分として水性エマルジョンを使用しているため、油性ベース中で安定配合することを必要とし、その結果0/W/0型のダブルエマルジョンまたはトリプルエマルジョン化する必要があり、そのため界面活性剤の使用を余儀なくされている。しかし、界面活性剤の使用は皮膚刺激の点で好ましくなく、また化粧効果の点でも耐油性、耐水性の低下を招く結果となる。

そこで、本発明者は斯る欠点を改良すべく锐意研究を行つた結果、皮膜形成成分として非水系ポリマーディスパージョンを使用すれば従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、化粧機能、安定性、製法が著しく改善されることを見出し、本発明を完成した。

従つて、本発明は皮膜形成成分として非水系ポリマーディスパージョンを含有するマイキヤップ化粧料を提供せんとするものである。

本発明で使用される非水系ポリマーディスパージョンとしては、例えば次の(a)または(b)のものが挙げられる。

(a) 分散重合体：ステレン、 $\alpha$ -メチルステレン、エチレン、プロピレン、アクリル酸またはメタクリル酸と炭素数4~

18個の高級アルコールとのエステル類の重合体またはこれらの共重合体。媒体：エタノール、プロパノール、イソプロパノール等の低級アルコール。

(b) 分散重合体：酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル等の脂肪酸ビニル、アクリル酸またはメタクリル酸と炭素数4以下の低級アルコールとのエステルの重合体またはこれらの共重合体。

媒体：ミネラルスピリット、アイソペー（エソックス油社製）、IPソルベント（出光石油社製）等の脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素またはこれらの混合物。

本発明のマイキヤップ化粧料は、通常の油性タイプのベースに皮膜形成主成分として非

水系ポリマーディスパージョンを配合し、媒體として揮発性炭化水素（沸点110～250°C）を使用して常法に従つて製造される。マイキヤツブ化粧料に配合する非水系ポリマーディスパージョンの配合割合は個々の製品形態によつて広範囲に変化させることができる。

このように、本発明の化粧料は媒體も分散重合体も共に油性物質であるため完全な油性ベースが形成され、その皮膜は従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、耐油性、耐水性、乾燥性等の機能において著しく優れている。また本発明化粧料は上記のような構成であるため、公知の化粧料中最も好ましいものとされている油性皮膜タイプ化粧料と比較した場合、安定な化粧料を得るのにダ

特開昭53-94041(3)

ブルエマルジョン、トリプルエマルジョン化する必要がなく、極めて簡単な操作で製造できる。更にまた、媒體としてエチルアルコールを使用してネイルエナメルを製造するときは、トルエン、酢酸エチル、酢酸ブチル等の溶媒を使用する従来のネイルエナメルに比較し、毒性の少ないものを提供することができる。

次に実施例を挙げて説明する。尚実施例中の配合比は重量部で示した。

実施例1(マスカラ)

① 膜化鉄(黒色)	7.5	⑥ 非水系ポリマーディスパージョン	23.0
② タルク	7.5	(分散重合体:アクリル酸エ	
⑦ 非水系ポリマーディスパージョン	25.0	テルエステル重合体、媒體:	
(分散重合体:アクリル酸メ		アイソペー	
チルエステル重合体、媒體:		⑦ 香料	適量
ミネラルスピリット)		製法: ①～⑥を加熱し、ローラー処理して均	
⑧ 香料	適量	一となし、次いでこれに⑦、⑧を搅拌下加え	
製法: ①～⑥を加熱し、ローラー処理して均		て製品とする。	
一となし、次いでこれに⑦、⑧を搅拌下加え		実施例2(アイライナー)	
て製品とする。		① アイソペー	28.0
実施例2(アイライナー)		② ラノリンアルコール	6.0
① アイソペー	88.0	③ ミツロウ	0.5
② ベントナイト	2.0	④ パラフィンワックス	0.5
⑥ 体质顔料	85.0	⑤ 体质顔料	45.0
④ カーボンブラック	2.0	⑥ 着色顔料	5.0

⑦ 非水系ポリマーディスパージョン 15.0

製法：a：①と④を均一に混合する

(分散重合体：酢酸ビニル重  
合体、媒体：アイソパー)b：③と④をローラー処理して均一と  
する

⑧ 香料 适量

aにbを加えて製品とする。

製法：①～④を加熱し、ローラー処理して均  
一となし、次いでこれに⑦、⑧を攪拌下加え  
て製品とする。

以 上

## 実施例4(ネイルエナメル)

出願人 株式会社 小林コーポー

① アイソパー 10.0

代理人 弁理士 有賀 三幸

② 非水系ポリマーディスパージョン 88.0

弁理士 高野 登志雄

(分散重合体：酢酸ビニル  
-アクリル酸共重合体、媒  
体：エタノール)

③ ヒマシ油 1.2

④ 溶色顔料 0.8

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**